

## 佐竹炎主幹研究員が日本比較内分泌学会小林賞を受賞

(令和3年11月14日)

当財団の佐竹炎主幹研究員が、日本比較内分泌学会の小林賞を受賞しました。

受賞タイトルは「カタユウレイボヤの神経ペプチドやペプチドホルモンとそれらの受容体の構造、生理機能、および、進化に関する研究」です。佐竹主幹研究員は、尾索動物の一種、カタユウレイボヤ（以下、ホヤ）を対象にして、生物の神経系、神経内分泌系、内分泌系の進化・多様化の道筋を解明することを目指して研究を進めています。尾索動物は脊椎動物の姉妹群という、生物の進化で大変重要な位置を占めていますが、その神経系、神経内分泌系、内分泌系についてほとんどわかっていませんでした。佐竹主幹研究員の今回の受賞では、次の点が高く評価されました。

- ①多数のホヤのペプチド、受容体、およびシグナル伝達を決定した。
- ②新たに開発した機械学習を活用して、新規のペプチド-受容体相互作用を解明した。
- ③これらが制御する卵胞の成長、成熟、および排卵の分子機構を決定した。
- ④受容体の新しい分子進化系統を明らかにした。
- ⑤Imaging Massのワークショップ開催など、積極的にユニークな学会活動を行った。



小林賞は、我が国において神経系、神経内分泌系、内分泌系の進化や多様化を研究対象とする比較内分泌学を創設し、学会の設立と発展に尽力された故小林英司先生を記念するもので、同分野で貴重な研究をなし、その業績が特に優れた学会正会員に授与されます。授賞式や受賞口演はオンラインで行われ、賞状と副賞の記念品が贈呈されました。

今回の佐竹主幹研究員の受賞は、歴代の受賞者の中で最年少の受賞であるとともに、当財団では初めての生物系研究に対する学会賞の受賞という快挙でした。脊椎動物に比べて未知のことが多い無脊椎動物を端緒とする比較内分泌学研究に大きく貢献したとともに、これまでほとんどわからなかった無脊椎動物から脊椎動物への神経系や内分泌系の進化や多様化を解明する突破口を開き、幅広い研究分野における重要な学術的基盤を構築しました。「生物多様性の科学」に主眼を置いて研究に取り組んでいる当財団の研究員にも大きな励みとなりました。